

2013年10月3日

コンサルティングレポート

世界大学ランキング (THE 社) 発表

～ 日本らしい独自のランキング発信を～

革新支援部 [大阪] シニアコンサルタント 山村一夫

【要旨】

タイムズ・ハイヤー・エデュケーション社 (THE 社) が、「世界大学ランキング」を発表しました。世界1位は前年と同じカリフォルニア工科大学。日本では、東大23位 (前年27位)、京大52位 (前年54位) と少し順位を上げていますが、400位までの大学数は、11大学 (前年13大学、前々年16大学) と減少しています。

近年「世界大学ランキング」の種類も増えてきており、その影響力を考えると、日本らしい独自のランキング発信が必要と思われます。

1. 2013年「世界大学ランキング」(THE 社発表)

THE 社による発表

2013年10月3日、タイムズ・ハイヤー・エデュケーション社(以下、THE 社)は、「世界大学ランキング」を発表しました。シンガポールの南洋理工大学で開催される3日間の「ワールド・アカデミック・サミット」に合わせたタイミングで発表されました。初日は、S・R・ナザン前シンガポール大統領の開会演説、2001年ノーベル生理学・医学賞受賞者のポール・ナース氏の基調講演が行われました。



(左写真:南洋理工大学)



(右写真:講演中のポール・ナース氏)

世界の大学別の順位

2013年調査のランキング1位はカリフォルニア工科大学で、上位10大学はアメリカ・イギリスの大学が独占しています。

【図表1:世界の上位10大学(THE 社)】

| 順位 | 学校名 | 国/地域 |
|----|------------------|------|
| 1 | カリフォルニア工科大 | アメリカ |
| 2 | オックスフォード大 | イギリス |
| 2 | スタンフォード大 | アメリカ |
| 4 | ハーバード大 | アメリカ |
| 5 | マサチューセッツ工科大 | アメリカ |
| 6 | プリンストン大 | アメリカ |
| 7 | ケンブリッジ大 | イギリス |
| 8 | インペリアル・カレッジ・ロンドン | イギリス |
| 9 | カリフォルニア大バークレイ校 | アメリカ |
| 10 | シカゴ大 | アメリカ |

(出所)THE 社ウェブサイトをもとに作成

国別の傾向(過去3年を比較)

上位400校を見ると、アメリカが109大学、イギリスは49校で、減少傾向にあるものの依然として上位を占めています。2年前と比べて増加傾向にあるのは、ドイツ(4校増加して25校)、フランス(3校増加して12校)、新興国ではインドが4校増えて5校になったことが注目されます。日本の大学は、2年前の16校から、昨年13校と3校減少しましたが、さらに今年は2校減少し、11校となりました。

【図表2：国地域別 上位400位学校数(THE 社)】

| 13年順位 | 国/地域名 | 2011年発表 | 2012年発表 | 2013年発表 | 増減(11年比) |
|-------|----------|---------|---------|---------|----------|
| 1 | アメリカ | 113 | 111 | 109 | 4 |
| 2 | イギリス | 52 | 48 | 49 | 3 |
| 3 | ドイツ | 22 | 25 | 26 | 4 |
| 4 | オーストラリア | 21 | 19 | 19 | 2 |
| 4 | カナダ | 18 | 19 | 19 | 1 |
| 6 | イタリア | 14 | 14 | 15 | 1 |
| 7 | オランダ | 13 | 13 | 13 | 0 |
| 8 | 日本 | 16 | 13 | 11 | 5 |
| 8 | フランス | 8 | 12 | 11 | 3 |
| 10 | スウェーデン | 10 | 10 | 10 | 0 |
| 10 | 中国 | 10 | 9 | 10 | 0 |
| 12 | スペイン | 8 | 7 | 9 | 1 |
| 13 | スイス | 7 | 8 | 8 | 1 |
| 13 | 台湾 | 8 | 7 | 8 | 0 |
| 15 | ベルギー | 7 | 7 | 7 | 0 |
| 15 | 韓国 | 7 | 6 | 7 | 0 |
| 17 | 香港 | 6 | 6 | 6 | 0 |
| 18 | オーストリア | 5 | 6 | 6 | 1 |
| 19 | ニュージーランド | 6 | 6 | 5 | 1 |
| 19 | デンマーク | 5 | 5 | 5 | 0 |
| 19 | フィンランド | 5 | 5 | 5 | 0 |
| 19 | アイルランド | 5 | 5 | 5 | 0 |
| 19 | トルコ | 4 | 5 | 5 | 1 |
| 19 | インド | 1 | 3 | 5 | 4 |

(出所) THE 社ウェブサイトをもとに作成

日本の大学の位置

上位200位に入る日本の大学のなかでは、東京大、京都大、東京工業大、大阪大が、前年と比べ順位を上げました。上位200位に入る日本の大学数は、5大学で前年と変わりません。

【図表3：日本の大学の順位 上位200位 (THE 社)】

| 順位 | 2010年 発表 | 2011年 発表 | 2012年 発表 | 2013年 発表 |
|-------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 東京大 | 26位 | 30位 | 27位 | ↗ 23位 |
| 京都大 | 57位 | 52位 | 54位 | ↗ 52位 |
| 東京工業大 | 112位 | 108位 | 128位 | ↗ 125位 |
| 大阪大 | 130位 | 119位 | 147位 | ↗ 144位 |
| 東北大 | 132位 | 120位 | 137位 | 150位 |

(出所) THE 社ウェブサイトをもとに作成

「世界大学ランキング (THE 社)」の評価の特徴

THE 社の総合ランキングでは、下記の評価項目にウェイトをかけてスコアを出し、順位をつけます。研究型大学ランキングらしく、研究者仲間の評価、論文引用度のウェイトが大きいのが特徴です。

【図表4：ランキングのウェイト (THE 社)】

| No | 大項目 | ウェイト | 小項目 | ウェイト |
|----|------|-------|------------------|--------|
| 1 | 教育 | 30.0% | 研究者仲間による評価 | 15.00% |
| | | | 教員あたり博士号授与数 | 6.00% |
| | | | 教員当たり学生数 | 4.50% |
| | | | 学士授与数当たり博士授与数比率 | 2.25% |
| | | | 教員当たり収入 | 2.25% |
| 2 | 論文引用 | 30.0% | 平均論文被引用数 (補正あり) | 30.00% |
| 3 | 研究 | 30.0% | 研究者仲間による評価 | 18.00% |
| | | | スタッフ当たり研究収入 | 6.00% |
| | | | 「教員 + 研究者」当たり論文数 | 6.00% |
| 4 | 国際化 | 7.5% | 外国人教員比率 | 2.50% |
| | | | 外国人学生比率 | 2.50% |
| | | | 国際共著論文率 | 2.50% |
| 5 | 外部資金 | 2.5% | 教員当たり外部 (産業) 収入 | 2.50% |

(出所) THE 社ウェブサイトをもとに作成

2. たくさんある「世界大学ランキング」

「世界大学ランキング」は複数あり、増加傾向

世界的に影響力の大きい大学ランキングとしては3つあり、それぞれ、THE 社、クアクアレリ・シモンズ社(以下 QS 社)、上海交通大学が発表しています。それ以外にも、アメリカ・オランダ・スペイン・ドイツ・ロシア・台湾・サウジアラビア・インドネシアなどで、世界ランキングが発表されており、その数は近年増加傾向にあります。

【図表5:ランキングの種類による順位の違い(2013年発表分)】

| 学校名 | THE 社 | QS 社 | 上海交通大 |
|-------|-------|------|-----------|
| 東京大 | 23 位 | 32 位 | 21 位 |
| 京都大 | 52 位 | 35 位 | 26 位 |
| 東京工業大 | 125 位 | 66 位 | 101-150 位 |
| 大阪大 | 144 位 | 55 位 | 85 位 |
| 東北大 | 150 位 | 75 位 | 101-150 位 |

(出所)THE 社、QS 社、上海交通大学ウェブサイトをもとに作成

「大学ランキング」に対する批判

増加傾向にある「大学ランキング」に対しては、「総合ランキング」で一律に順位をつけることへの疑問や、論文引用数等での英語圏の有利さ、研究者による評価(ピアレビュー)の客観性、地域による数値の補正の適切性等、様々な批判があります。

2011年7月に、日本の11大学は連名で、THE 社のランキング評価方法に対して、抗議声明を出しました。

それでも無視できない背景

しかし、世界大学ランキングの影響力は、今後大きくなると思われます。数値による総合ランキングは、世界の留学生数が急増する中、進学先選びで参考にしやすい指標の一つです。また、このようなランキングは、世論にも影響を与え、現実、国の政策決定に影響を及ぼしています。

将来、アジアを中心とした新興国の台頭は、大学の序列を大きく変動させることになるでしょう。ランキングは既存秩序を守る方向にも、破壊する方向にも、影響力を行使することになるかもしれません。

確かに、今回の THE 社のランキングで400位以内にランクインする日本の大学は減少しました。しかし、下位になればなるほど、順位の違いほど、順位を決めるスコアに違いがありません。例えば、1位の大学と10位の大学のスコア差は7.4ポイントですが、191位と200位のスコア差は0.7ポイントしかありません。順位が下がるほどスコアの差が意味をなさなくなるので、THE 社では201位以下では、明確な総合順位を公表していません。インドの400位までにランクインした5大学のうち、4大学は351~400位の間にあります。今回400位に入らなかった日本の大学と比べてスコアで大きな違いはないと思われます。

しかし、順位としてのランキングは1人歩きを始め、さまざまな議論を巻き起こします。

3. 日本からの発信を

「ランキング」を祭り上げる危険性の認識

「ランキング」は、数値化されなかった他の要素を根こそぎにする危険性があります。その意味で「ランキング不要論」には耳を傾けるべき視点があるでしょう。数字では表現できないものの価値を考慮する想像力を失ってはならないと思います。「ランキング」は便利ですが、ただ鵜呑みにするのではなく、背景を理解しようとする態度は、それを活用できる立場になる条件の一つではないでしょうか。

日本独自のランキング発信の必要性

日本の視点で作成された世界ランキングがないわけですから、日本から自分たちの目指したい基準を表現するランキングがあってよいかもしれません。中国の上海交通大学のように、たとえ自国が低いランキングでも、自分たちはここを目指すのだ、というランキングがあってもよいでしょう。

グローバル化が急速に進み、競争にさらされる中で、国外の基準をただ受け入れているように見える状況でよいはずはありません。ヨーロッパでは、あえて「総合ランキング」を作らない多面的なランキングの試み、教育成果に的を絞ったランキングの試みも行われています。ベースデータに透明性があり、検証可能で、評価のウェイトを自由に変えることができる、そのような世界的なインフラができるのも時間の問題かもしれません。

活用する側の様々な価値・目的に対応するためにも、否定論も含めたランキングに対する哲学・態度、そして、その種類も「多様」であることが必要でしょう。

4. 参考文献

タイムズ・ハイヤー・エデュケーション社 ウェブサイト

<http://www.timeshighereducation.co.uk/world-university-rankings/>

クアクアレリ・シモンズ社 ウェブサイト

<http://www.topuniversities.com/university-rankings>

上海交通大学 ウェブサイト

<http://www.arwu.org/index.html>

一般財団法人 新技術振興渡辺記念会

「世界大学ランキングの意味 - 日本の将来への影響と対策 - 」

「世界大学ランキング 2011 - 日本の大学の動向 - 」

- ご利用に際して -

- ┃ 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ┃ また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- ┃ 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- ┃ 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- ┃ 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。